

## 令和4年仙台市の人口動向

人口の動向は、自然動態（出生及び死亡の動き）及び社会動態（転入及び転出の動き）によって説明されます。この特集は、令和4年1年間の仙台市の人口動向について、社会動態を中心に報告するものです。

### 利用上の注意

- ・本報告書で用いた地域区分は次のとおりです。

仙台都市圏内の他市町村：（東部ブロック）塩竈市、多賀城市、松島町、七ヶ浜町、利府町  
（北部ブロック）富谷市、大和町、大郷町、大衡村  
（南部ブロック）名取市、岩沼市、亘理町、山元町

北海道地方：北海道

東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県  
東北5県は、東北地方から宮城県を除いた地域

関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県

近畿地方：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※なお、本文中にある「その他の地方」は、特にことわりのない場合、上記のうち東北地方と東京圏を除いた地域をいいます。

※平成28年10月10日に、「富谷町」は市制施行により「富谷市」となりました。

### 用語の説明

- ・登録人口＝住民基本台帳人口（日本人住民＋外国人住民）
- ・人口増加数＝自然増加数＋社会増加数
- ・自然増加数＝出生数－死亡数
- ・社会増加数＝転入数－転出数＋その他の増加数（職権記載・消除、国籍取得・喪失、転出取消等）

## 解説

### I 登録人口（日本人住民＋外国人住民）による人口動向

#### 1 概要

令和4年末の登録人口は106万7,486人でした。

また、令和4年1年間の人口増加数は2,121人となり、前年の人口増加数△567人に比べ2,688人の増加となっています。その内訳は、自然増加数が△3,707人（対前年1,294人の減少）、社会増加数が5,828人（対前年3,982人の増加）となりました。

（表1、図1、統計表第1表）

表1 登録人口の推移—全市、区（平成29年～令和4年）

年次	各年末（単位：人）							
	仙台市	青葉区	うち 宮城総合 支所	宮城野区	若林区	太白区	うち 秋保総合 支所	泉区
平成29年	1,060,545	292,649	73,856	189,777	134,919	228,310	4,130	214,890
30	1,062,585	292,897	74,309	190,079	135,980	229,806	4,107	213,823
令和元年	1,064,060	292,998	74,365	190,215	136,465	231,353	4,059	213,029
2	1,065,932	293,003	74,642	190,567	137,281	232,642	3,978	212,439
3	1,065,365	292,827	74,720	190,228	137,282	233,642	3,858	211,386
4	1,067,486	295,255	74,649	189,431	137,911	234,493	3,783	210,396

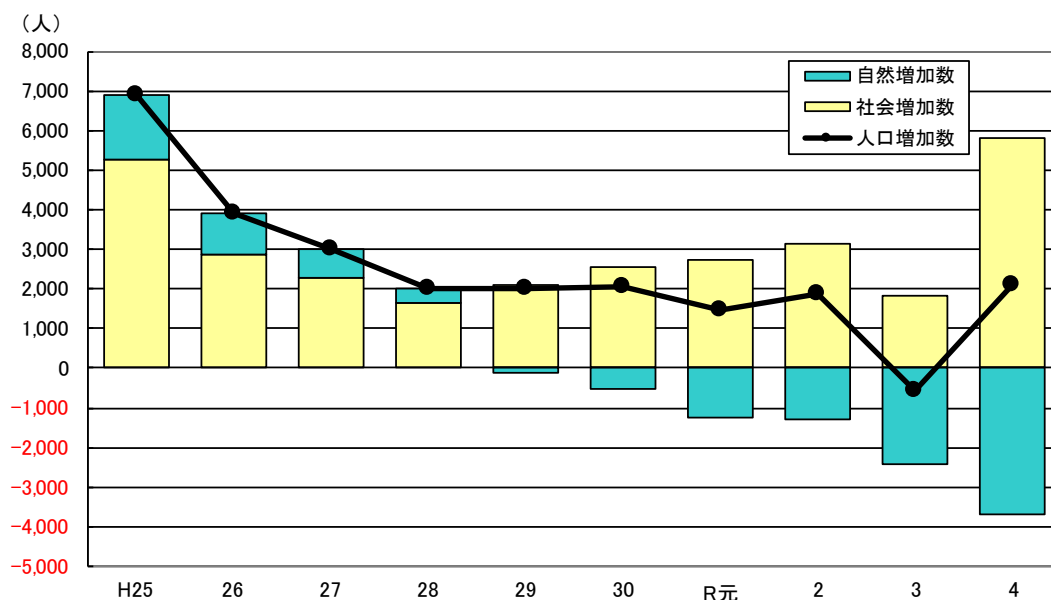


図1 人口増加数の推移（平成25年～令和4年）

区別の動向をみると、青葉区、若林区、太白区において人口が増加しており、前年の人口増加数を上回ったのは青葉区、若林区、泉区でした。

人口増加数が最も多かったのは青葉区の2,428人（自然増加数△1,358人、社会増加数3,786人）で、以下、太白区の851人（自然増加数△869人、社会増加数1,720人）、若林区の629人（自然増加数△273人、社会増加数902人）、宮城野区の△797人（自然増加数△243人、社会増加数△554人）、泉区の△990人（自然増加数△964人、社会増加数△26人）でした。

特に青葉区の社会増加数が大きくなっていますが、これは令和4年3月以降の新型コロナウイルスの水際対策緩和による外国人住民の増等が寄与していると思われます。

（表1、図2、統計表第1表）

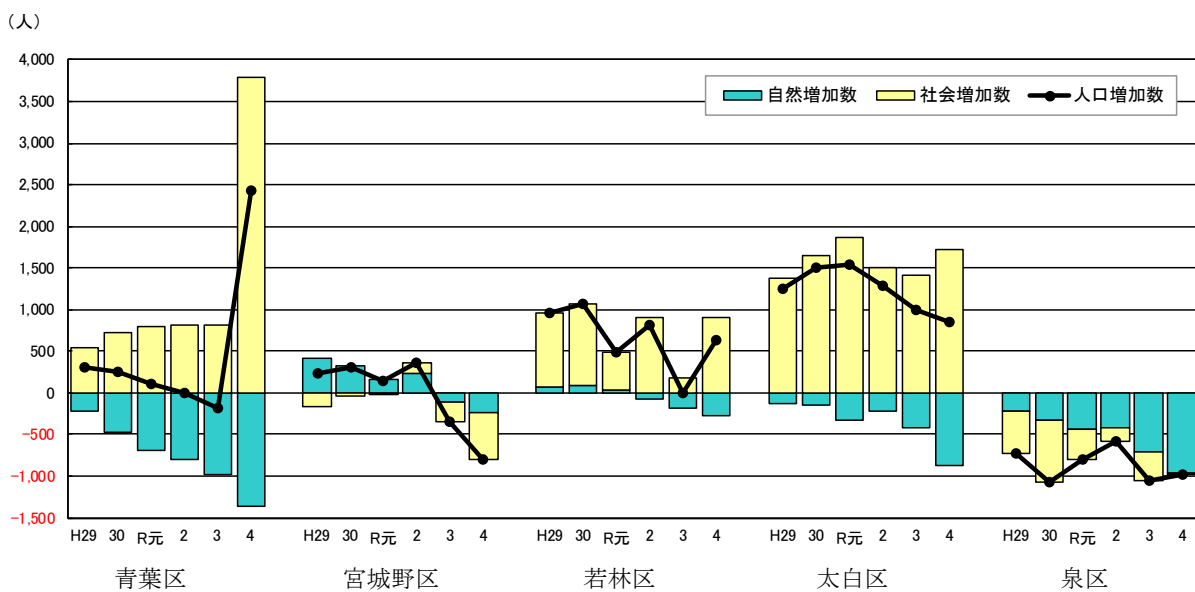


図2 人口増加数の推移一区（平成29年～令和4年）

## 2 自然動態

令和4年の出生数は前年より263人減少して7,118人、死亡数は前年より1,031人増加して10,825人となったことから、自然増加数は $\Delta 3,707$ 人となり、前年の $\Delta 2,413$ 人に比べ1,294人減少しました。自然増加数は6年連続で減少しています。また死亡数は10年連続で増加しました。

(図3、統計表第1表)

区別の動向をみると、出生数は全ての区で前年より減少し、死亡数は全ての区で前年より増加しました。

自然増加数のマイナス幅が最も小さかったのは宮城野区の $\Delta 243$ 人(出生数1,469人、死亡数1,712人)で、以下、若林区の $\Delta 273$ 人(出生数1,044人、死亡数1,317人)、太白区の $\Delta 869$ 人(出生数1,714人、死亡数2,583人)、泉区の $\Delta 964$ 人(出生数1,187人、死亡数2,151人)、青葉区の $\Delta 1,358$ 人(出生数1,704人、死亡数3,062人)でした。

(図4、統計表第1表)

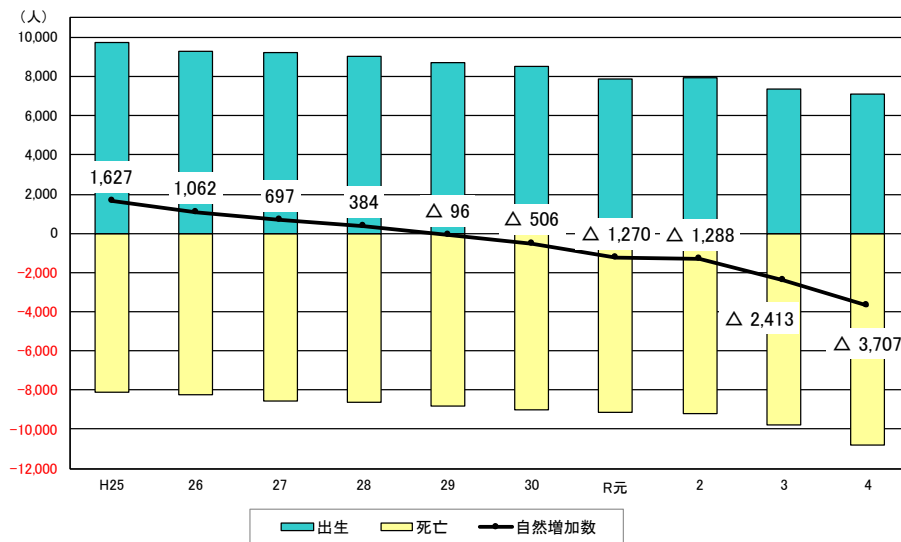


図3 自然動態の推移—全市(平成25年~令和4年)

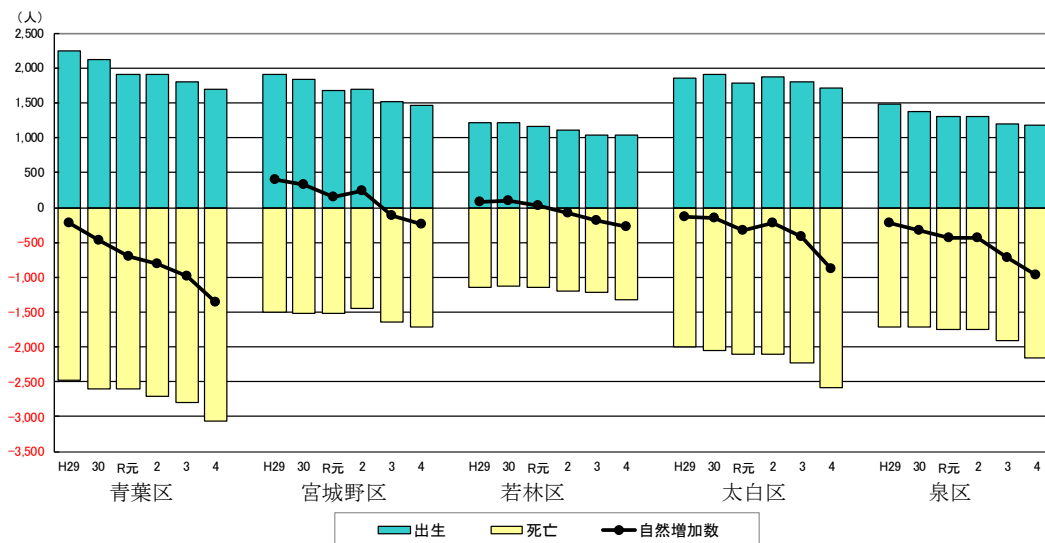


図4 自然動態の推移—区(平成29年~令和4年)

### 3 社会動態（区間移動含む）

令和4年の転入数は6万7,351人で前年より3,756人の増加、転出数は6万1,507人と前年より250人の減少、この結果、転入・転出数の差にその他増加数△16人を加えた社会増加数は5,828人となりました。前年の社会増加数1,846人に比べ3,982人の増加となっています。

区別の動向をみると、青葉区、若林区、太白区で県内移動、県外・国外との移動がともに転入超過となりました。宮城野区、泉区では県内移動が転出超過、県外・国外との移動が転入超過となりました。

社会増加数が最も多かったのは青葉区の3,786人（転入数2万1,877人、転出数1万8,054人、その他増加数△37人）で、以下、太白区の1,720人（転入数13,426人、転出数11,729人、その他増加数23人）、若林区の902人（転入数9,559人、転出数8,608人、その他増加数△49人）、泉区の△26人（転入数9,731人、転出数9,762人、その他増加数5人）、宮城野区の△554人（転入数1万2,758人、転出数1万3,354人、その他増加数42人）でした。

（図5、統計表第1表）

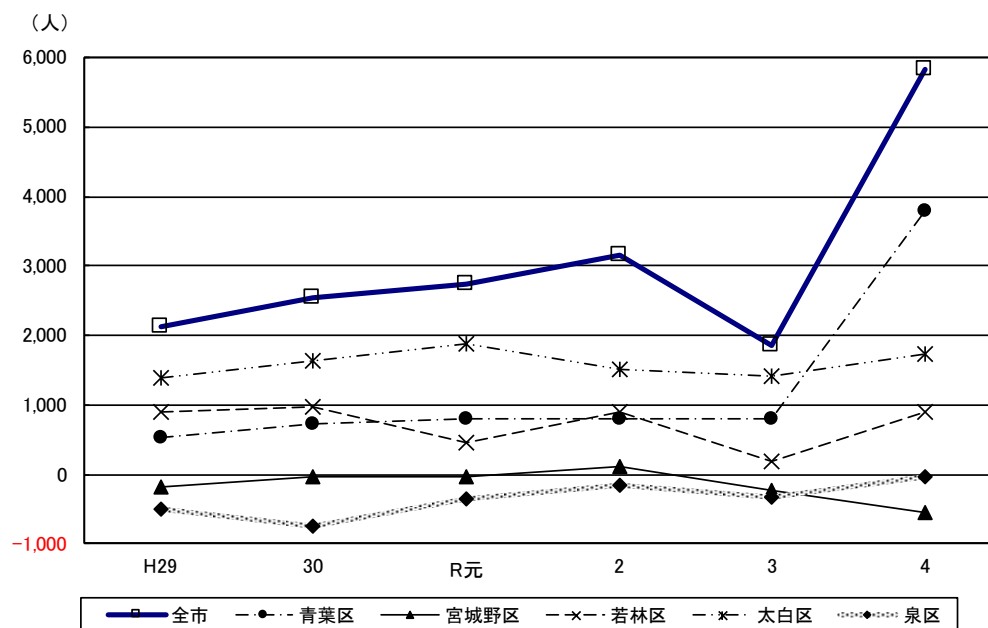


図5 社会増加数の推移—全市、区（平成29年～令和4年）